

の集積がみられた。これらはグルコセレブロシドを含んだ網内系細胞（ゴーシェ細胞）の浸潤が疑われる領域であり、集積機序としては同部位での網内系細胞の増殖が考えられた。^{99m}Tc-MDPによる骨シンチグラムではゴーシェ細胞の骨髄浸潤に対する骨新生部位に集積がみられた。⁶⁷Ga-citrateシンチグラムではゴーシェ細胞浸潤が強いと思われる骨部に集積がみられたが、その機序については不明である。

14. 全身に広汎な⁶⁷Ga集積増加を認めたサルコイドーシスの1例

岡田 吉隆 大嶽 達 西川 潤一
町田喜久雄 飯尾 正宏 (東大・放)

22歳男性のサルコイドーシスの症例を報告する。胸部X-P上のBHL所見で発見され、全身のリンパ節・耳下腺・涙腺の腫脹、および上肢を中心とする多数の皮下結節を伴っていた。検査所見上は白血球増多・血清P上昇・ACE活性上昇などを認め、また尿崩症も合併していた。⁶⁷Gaシンチグラムにおいて、両側耳下腺・涙腺への取り込み亢進が認められ、さらに頸部・縦隔～両肺門部・鼠径部などにGa集積が見られた。また、上肢を中心とする皮下結節にも明らかなGa集積を認めた。このような皮膚のサルコイドーシス病変をGaで描出した報告は文献上数少ないものである。

16. 血中サイログロブリン測定法の基礎的ならびに臨床的検討

九島 健二 原 秀雄 佐藤 龍次
伴 良雄 (昭和大・三内)

血中サイログロブリン(Tg)濃度を、Henning社製RIA-gnost Tg Kitを用い、基礎的ならびに臨床的検討を行った。インキュベーション時間は、第一16時間、第二1時間、室温で行い、アッセイ内変動係数は10.6%、アッセイ間のそれは10.1%で、交叉性はなく、回収率は良好で、臨床的応用に満足するKitであった。未治療Graves病患者59.9±55.9(7.8~200.3)ng/ml、橋本病患者38.9±23.9(16.5~88.0)ng/ml、単純性甲状腺腫患者17.9±15.5(6.25~67.0)ng/ml、濾胞状腺腫患者97.0±42.4(36.0~150.0)ng/ml、腺腫様甲状腺腫患者107.5±

110.7(19.0~320.0)ng/ml、甲状腺癌患者259.9±370.5(6.2~800)ng/mlであり、正常者に比して、いずれも有意に高値を示した。甲状腺癌では、7例中2例で800ng/ml以上の異常高値を示した。Graves病では寛解群は、未治療群に比して有意に低値を示したが、正常者よりは高値を示した。抗甲状腺剤投与群では、大量投与群で維持量投与群より高値を示した。

17. TSH-receptor抗体測定法の基礎的ならびに臨床的検討

石川 直文 盧 在徳 小柳 博司
百溪 尚子 齊藤一二三 伊藤 國彦
(伊藤病院)
伴 良雄 (昭和大・三内)

TSH受容体抗体の測定にはSmithのKitが現在広く用いられている。われわれは本Kitを用い基礎的ならびに臨床的検討を行った。基礎的検討では、Intra assayおよびInter assayの変動係数はおのおの1.6~12.4%、2.4~19.6%と比較的良好な結果が得られた。未治療バセドウ病患者の全血清とそれより分離したIgGによるTRAb活性値の比較では、両者には有意な正の相関が認められた。TRAb測定の際の1stインキュベーション時間をプロトコルドおりの15分の他に60分、120分とし、3者のTRAb活性値を比較してみた。3者の平均値をt検定したが有意差はなく、1stインキュベーション時間は従来どおりの15分で問題はなかった。臨床的検討では、バセドウ病とnongoitrous hypothyroidismの両疾患でTRAbが高値を示した。未治療バセドウ病での陽性率は全血清で88.0%、IgGのそれは92.0%と高く、本疾患診断の指標の1つとしてTRAbが使用できると思われた。

18. CEA測定用3RIAキット(ダイナボット、第一、栄研)の比較検討

小堺加智夫 中込 俊雄 丸山 雄三
(東邦大・中放)
金子稜威雄 佐々木康人 (同・放)

今回われわれは同一試料による国産3キット、ダイナボットCEAリアビーズ、CEAキット第一、CEA栄研